

肝細胞癌（HCC）に対する肝動脈塞栓術（TACE）の進歩とこれからの役割

肝臓川柳

肝がんも 治癒を目指して 進歩で～す
(進歩で～す…でーす…てーす…TACE)

肝細胞癌（HCC）に対する治療は、手術、ラジオ波焼灼術（RFA）、肝動脈塞栓術（TACE）が3本柱ですが、中程度の進行度（局所進行）で肝外転移や脈管侵襲がない多発肝細胞癌（intermediate stage）では、TACEが標準治療法です。

TACEは、カテーテルや塞栓物質の進歩、支援ソフトの発達などにより、HCCだけを超選択的に塞栓出来るようになり、治療効果、肝予備能温存とも飛躍的に進歩しています。

最近さらに、このTACEに分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤を組み合わせた逐次的な治療法が考案されており、中等度進行HCCのさらなる治療効果アップや手術などに切り替えて完全治癒を目指す方針も出ており、HCC完全治癒におけるTACEの役割はますます大きくなってきています。

組み合わせ治療の話題については、次回の肝トピックスでお伝えする予定です。



これだけ覚えておいて損はない！今回のポイント

肝細胞癌に対する治療法の中でも肝動脈塞栓術（TACE）はHCCだけを超選択的に塞栓出来るようになり、治療効果、肝予備能温存とも飛躍的に進歩しています。最近では、分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤を組み合わせた治療法などが考案され、更なる治療効果アップ、完全治癒に向けて非常に期待されています。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院 肝疾患センター長 野ツ俣 和夫)